

＜カラスとスズメ＞秋が次第に深まってくると野辺の花に代わってまず柿の実の赤が目を惹きます。また雑木林の縁辺で彩りを添えているのはカラスウリです。木を伝って這い登った蔓(つる)の先に赤橙色の実を付けています。人が食べられないから”カラス”とのことです。もうひと回り小さいスズメ



＜カラスウリ＞



＜スズメウリ＞

ウリも見られます。こちらは灰白色で地味ですがまん丸くて可愛らしい実を鈴生りに付けています。

＜花より果実＞ニシキギやゴンズイは花があまり目立たず果実の方がずっと華やかな色と形をしています(ビオトープの四季 No.22, 25 参照)。同じく秋に果実の目立つものの一つがイタドリ(すかんぼ)です。3枚の白い羽を持った実がびっしりと付いてる姿は目を惹きます。センニンソウの果実は花ほど目立ちませんが独特の形をしていてまさに仙人の髭です。一方、色も形も地味ですが美味しい木の実が雑木林にあります。ムクノキの 1cm 足らずの黒い実で、干し柿のような味と食感がします。



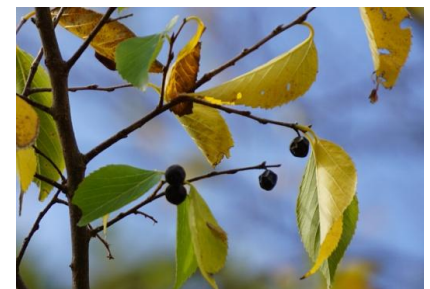
＜イタドリの果実＞



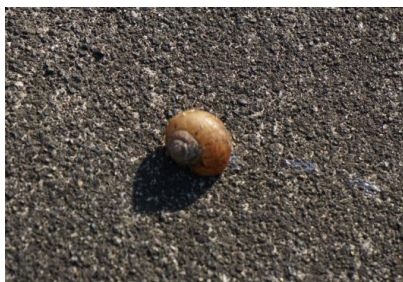
＜センニンソウの果実＞

(イタドリ)若い茎を折ると“ポコッ”と音がし齧ると酸っぱい味がします。“すかんぼ”とも言い子供のころに遊んだ記憶はありませんか。ただ“スイバ”も“すかんぼ”と言います。「すかんぼや峠の雨の降りに降り」(水原秋桜子)は“イタドリ”で、「近道の畔(あぜ)のすかんぼ跨ぎ行く」(手良村年三)は“スイバ”のように思います。

＜旅半ば＞天気の良い日の朝、舗道の中ほどで身をすくめるオナジマイマイを見つけました。これからの寒さをしのげる枯れ葉の積もった場所を求めて危険な旅に出たのでしょうか。辿り着く前に日が昇り動けなくなったようです。あと 1m ほど、時間にして 10 分足らずで無事に旅を終えられたと思うのですが。翅があれば---それではカタツムリではないですね。翅のある生き物の多くも姿を消しましたがオオアオイトンボは変わらず姿を見せます。



＜ムクノキの果実＞



＜オナジマイマイ＞

(オナジマイマイ) 学名”*Bradybaena similaris*”の *similar* から“オナジ”になったようです。ティモール島基産のものがサツマイモなどの農産物に付着し世界中に広まったとされています。

(文と写真：松本正勝)



＜オオアオイトンボ(再登場)＞